

SAR が捉えた地殻変動からみる断層運動

小林 知勝 (国土地理院)

ポイント

- SAR 衛星 (だいち 2 号) 画像を用いて広大な地殻変動を面的に捉えることに成功
- 1 回目及び 2 回目の地震の断層長はそれぞれ約 350 km 及び約 150 km
- 深さ 10 km 以浅で左横ずれすべりが卓越し、その大きさは約 10m
- 前回の大地震以降蓄積された地震モーメントと 2023 年に解放されたモーメントの収支に不整合. エネルギー収支に関する、より精度の高い分析には、歴史地震の正確な発生位置、年代、規模の推定が不可欠
- 2 回目の地震は 1 回目の地震に伴う応力場の変化により促進された可能性
- 東アナトリア断層帯から遠方でも小規模な断層運動

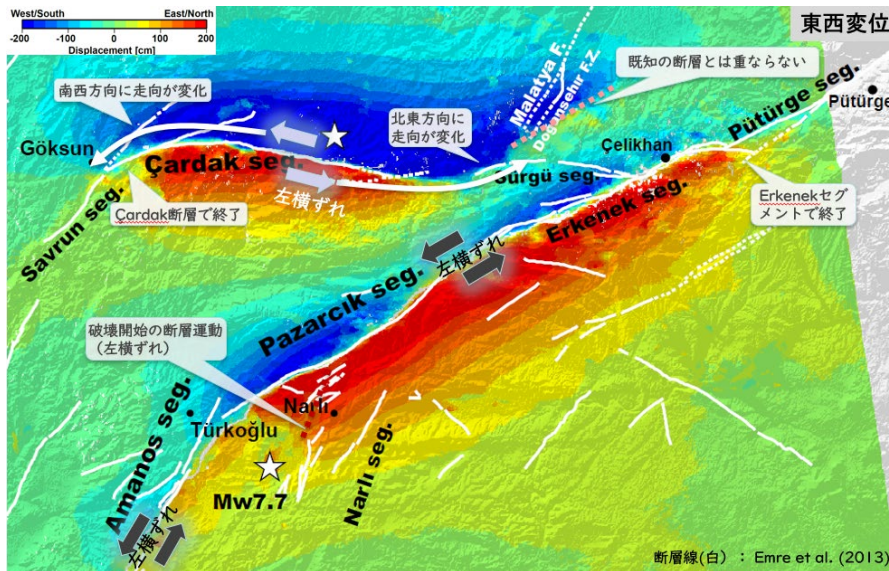


図 1 SAR で捉えられた地殻変動 (東西変位成分) と活断層

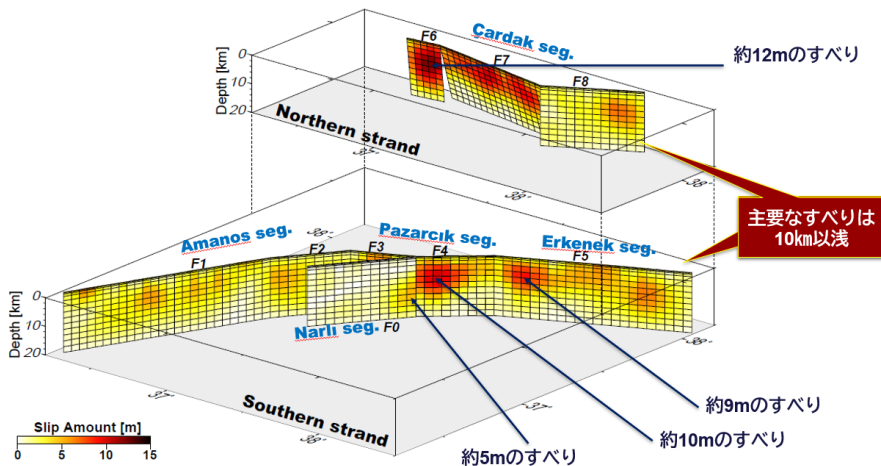


図 2 断層面上のすべり分布